

## 文学研究科

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 日本文化専攻

##### 【修士課程】

文学研究科日本文化専攻修士課程では、日本文化における多面性や独自性など諸問題についての総合的な把握に関しては、必修の日本文化研究方法論では日本語学、日本文学、日本民俗学、日本史学など個別の各専門分野を総合した日本文化の研究方法を修得します。しかしそれだけではとどまらず、さらに選択科目の中でも、個別の専門分野ではない他分野の日本文化に関する科目4科目16単位以上を取得できるようになっています。さらに日本文化以外の、文学研究科内の地域社会システム専攻や欧米文化専攻や他研究科に関する科目も2科目8単位まで取得可能となっています。

一方、個別の専門分野について個別的に実証的に研究することに関しては、各分野の専修科目において、専門的講義4単位を受け知識を獲得し、演習8単位において専門的な研究能力を養い、最終的に修士論文を作成するようにしています。

また中等教育機関の教員や博物館学芸員などの専門職や博士後期課程に進学できる人材の養成をめざします。

##### 【博士後期課程】

文学研究科日本文化専攻博士後期課程では、修士課程における専門的知識を基としつつ一層高度な専門的研究能力の向上をめざして、必修の専修科目1科目4単位及び研究演習4単位を修得します。それ以外の専修科目についても、指導教授の指導の下で取得が可能です。なお専修科目は、日本文化に関する各分野の専門的な知識、思考・分析力について修士課程よりのさらなる資質向上をめざすためのものです。研究演習は、課程博士論文を作成するための指導であるとともに、高度で専門的な研究方法と研究能力のさらなる向上をめざしたものです。

#### 地域社会システム専攻

##### 【修士課程】

文学研究科地域社会システム専攻修士課程では、社会学及び地理学を主たる構成要素として地域社会について多面的、実証的に分析し、地域社会の具体的諸課題の解決と地域社会のあり方をシステムとして複合的、総合的に構想し、実践的に取り組むことのできる専門的な能力を養成することを目的として教育課程を編成しています。科目編成においては地域社会をシステムとして体系的総合的に認識するための地域社会システム論を基幹科目として必修科目とし、その他に地域社会を構成する分野や要素を考慮した多様な科目を選択科目として開設しています。

教育方法、指導方法については、院生の研究課題にもとづいて選択する専修科目とその担当教員による演習形式の個別指導を中心に行い、専門的な研究方法の修得と研究能力の養成により、最終的には修士論文として成果を作成します。

### 【博士後期課程】

文学研究科地域社会システム専攻博士後期課程では、修士課程における高度な専門的能力を基礎として、さらに研究的、独創的な研究能力を育成するために、地域社会システムに関する特殊研究科目により個別テーマによる研究の指導を行います。

## 欧米文化専攻

### 【修士課程】

文学研究科欧米文化専攻修士課程では、愛知大学大学院学則に示された教育目標を達成するために、教育課程の編成と実施方針を以下の通り定めています。

- (1) 学生達に思想、文学、言語学の各分野に関する専門的知識と幅広い知識を授け、常に知的好奇心を以て研究に取り組む姿勢を涵養しなければならない。そのために多岐にわたる系統的な科目を設置する。
- (2) 専門的知識ばかりに偏ることなく、関連分野の広範な知識をも体得して客観的視野を広げ、研究に幅と客観性をもたらすべく他専攻の科目の履修を認める。
- (3) 欧米文化研究方法論を1年次の必修とすることで、修士論文の執筆に向けて研究の仕方の基本を学ばせる。
- (4) 学生の研究指導に当たっては、指導教授のほかに副指導教授を置くことで、異なった観点からの指導を推進し、学生の研究の視野を広げ豊かにする。
- (5) 必修と選択の科目の履修以外に、自国の歴史的文化に関する自主的学習を合わせて行うことを勧奨し、自己の立脚点を堅固なものとすることで、欧米文化を一層深く探究できる指導体制を取る。

### 【博士後期課程】

文学研究科欧米文化専攻博士後期課程では、教育課程の編成と実施方針を以下の通り定めています。

- (1) 思想、文学、言語学の各分野において、修士課程での研究の深化と、関連の教養的知識の蓄積を前提にして、さらに高度な専門知識を教授し、きめ細かな指導の下に論文作成への手引きをする体制を整える。
- (2) 一見類似したものの中に相違を、一見遠い関係のものの中に近似性を認知できるような批評精神を、専門分野以外の事柄にも及ぶ広汎な探究を通して養成する。